

# 抑制きゅうりの品種比較について

## 1 試験のねらい

抑制きゅうり栽培では、良質・多収性の品種が強く求められているが、最近では数多くの品種が市販されている。そこで、品種選定するための資料を得るため、品種比較試験を行った。

## 2 試験方法

秋山ほか14品種を供試し、夏秋節成2号を標準品種とした。は種は昭和58年7月20日、定植は8月10日に畝幅180cm、株間50cmの2条植えとした。規模は1区10株、施肥量は、3要素とも0.9kg/aとし、その他の管理は慣行に準じた。

## 3 試験結果及び考察

8月31日調査時の草丈は、標準品種の夏秋節成2号に比べ、鳴神が低かったほかはほぼ同程度であった。側枝の発生率は王金貴緑が最も高く、北山2号、貴婦人、貴婦人ニュータイプ、試交200号、南極1号が80%を越える発生率を示した。

収穫始期は秋山、夏秋節成2号が9月5日と最も早く、次いでひじり、夏秋節成改良であったが、南極1号は9月14日と最も遅く、約1週間遅れた。前期収量は秋山、ひじり、夏秋節成改良、試交200号が、夏秋節成2号と同程度であったほかはやや劣り、貴婦人ニュータイプは最も低収であった。総収量は試交200号が最も多く、次いでひじりであり、その他、北山2号、王金貴緑、貴婦人ニュータイプ、南極1号が、夏秋節成2号と同程度～やや多収であった。

上物収量は南極1号、貴婦人ニュータイプが高く、次いで王金貴緑で、夏秋の光が最も低収であった。主枝果率は南極1号、貴婦人ニュータイプ、北山2号が低率であった。

果色は鳴神、貴婦人他6品種が濃緑色と優れ、果のそろいは貴婦人、貴婦人ニュータイプ、貴婦人改良、高嶺及び南極1号が良好であった。果実の模様の発生は全期間を通じ、貴婦人、貴婦人ニュータイプ、貴婦人改良、高嶺及び南極1号でみられなかった。

## 4 成果の要約

きゅうりの抑制栽培に適した品種を選定するため、品種比較試験を行った結果、多収で、上物率が高く、また、果色等品質的にも良好な貴婦人ニュータイプ、南極1号が有望と思われた。

(担当者 野菜部、山城誠一\*、栃木博美、和田悦郎)

\*現作物部

表-1 生育及び品質

No.	品 種	生育(8月31日)		側枝発 生率%	収穫開 始月日	主枝果 率 %	上 物 率 %	果 実 特 性		
		草丈cm	葉数枚					果 色	果 長	そ ろ い
1	秋 山(トキタ)	165	20.6	69	9.5	19.7	82	やや濃緑	中	並
2	ひ じ り(久留米)	170	20.8	73	6	21.3	74	〃	やや長	やや良
3	夏秋節成改良(埼玉)	163	18.8	66	6	26.3	80	緑	やや短	〃
4	た け ぶ え(サカタ)	158	19.0	69	7	17.4	77	やや濃緑	中	〃
5	貴婦人改良(埼玉)	152	17.7	74	7	18.6	88	濃 緑	やや長	良
6	鳴 神(カネコ)	129	17.5	76	8	23.9	79	〃	やや短	やや良
7	貴 婦 人(埼玉)	159	18.8	80	8	8.2	84	〃	中	良
8	まさみどり(〃)	152	17.7	55	8	21.7	80	〃	〃	やや良
9	試交200号(〃)	177	20.8	84	8	12.8	68	緑	〃	不良
10	高 嶺(ときわ)	166	15.7	79	8	10.0	85	濃 緑	〃	良
11	夏 秋 の 光(〃)	157	19.5	78	11	12.4	72	緑	〃	並
12	貴婦人ニュータイプ(埼玉)	151	18.1	82	12	2.0	85	濃 緑	長	良
13	北山2号(高山)	162	20.3	81	13	3.6	81	緑	短	やや良
14	王金貴緑(埼玉)	161	19.8	89	13	8.8	82	やや濃緑	中	〃
15	南極1号(ときわ)	161	17.8	86	14	0.9	86	濃 緑	〃	良
16	夏秋節成2号(埼玉)	167	19.7	62	5	26.7	83	〃	やや長	やや良

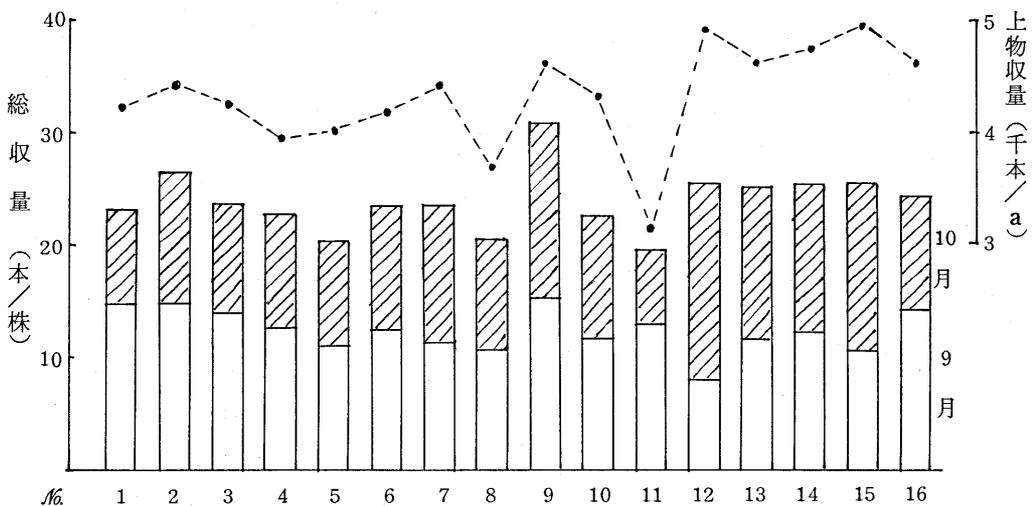


図-1 時期別収量及びa換算上物収量